

地域の連携で高齢者の移動支援を考える

～買い物支援を通して～

- ◎相馬みゆき（日野市地域包括支援センターすずらん）
野沢一弘・矢崎功（南平地区社会福祉協議会）
神田耕治（社会福祉法人友遊の家）
柴田三奈子（株式会社ラピオン）
大久保江理 山田明生（日野市社会福祉協議会）

1. はじめに

平成30年「南平は交通の便が悪いからどこに行くのもタクシーなのよ。」との地域の高齢者の言葉が発端だった。本当にこの地域は交通の便が悪いのかと検証しようと、地域の移動手段について調べてみた。電車やバスなどの公共交通機関はあるのか、どこがバス停か、公共交通機関以外にどんな移動方法があるのか、各行政機関などの協力を得ながら情報を集め、地域住民にも集まってもらい地域ケア会議を開催した。その会議を重ねることで分かったことは①南平には公共交通機関空白地があるが、これ以上公共交通機関の参入は望めない②その他の移動手段は地域の協力がないと難しい③交通手段がないため外出の機会が減っている可能性もある④買い物支援をすることで外出を支援することができるかもしれない。などである。



そこに、社会福祉法人をまとめる日野

市社会福祉協議会（以下「日野社協」）から「他地域の社会福祉法人が社会貢献としてデイの送迎車を使った買い物支援をしたいとの打診があったが、地域での受け皿が少なく、実施ができない。南平の地域でどうか？」との相談が入った。

平成30年10月1日、ここから、南平の買い物支援が始まった。

2. 買い物支援Aコース始動

①関係機関での打ち合わせ

日野市には社会貢献としてのデイ送迎車を使った事業は今までなかった。新しい取り組みを始めるにあたって社会福祉法人理事長・行政・包括支援センター・日野市社会福祉協議会・民生委員・地域のボランティア団体である南平地区社会福祉協議会（以下「南平地区社協」）会長で打ち合わせた。対象地域は地域ケア会議で公共交通機関空白地であるとわかった地域を選択。その地域での実施について検討を開始した。

・道路が狭いので車を駐車できない。これは地域の保育園に協力を求め、駐車場を借りることで解決。

・車と運転手はデイより提供できるが、乗降時の見守りや協力の人は出せない。これは南平地区社協に依頼。当該地域での車の乗降、スーパー内も南平地区社協

ボランティアが車の乗降介助や見守りをしてくれることで安全を確保することができた。

- ・当該地域の民生委員より自治会へ声掛けし、自治会役員会へ主旨を説明することで理解を得た。

- ・対象者は一人で買い物ができる、支払いができる元気な高齢者。介護認定の有無は問わないこととし、利用者選定は民生委員の協力を得た。

- ・利用は2回/月、まずはモニターを募り、お試しで3か月実施。

②モニターお試し期間から本格始動へ

平成31年1月から3月までの3か月に6回お試し実施。すると「生協で宅配をしているので買い物に不自由はないと思っていたが、自分の目で選べるのは楽しい」「3年ぶりにスーパーに来た」との感想もあり、買い物支援の需要があることがわかり、本格的にサービスが始まった。レジ袋の有料化やセルフレジの導入も南平地区社協ボランティアの協力で混乱することなく解決できた。



③サービスの継続

あれから6年。モニターとして参加していた高齢者は歩行ができなくなったり、施設に入居したりして今はもう利用していない。しかし当該地域で買い物に困っている高齢者のために今も買い物サービスは継続されている。セルフレジにも慣れてきた。コロナ禍で閉鎖されていたスーパーのイートインコーナーでのおしゃ

べりも再開され、社会参加の時間もできている。

3. 買い物支援Bコース始動

令和6年1月、買い物支援Aコースも軌道に乗ったころ、南平地区社協より「Aコースの地域以外にも交通空白地はある。特に丘陵地の高齢者から移動が大変だとの話を聞いた。」との声上がり、新たな買い物支援への挑戦が始まった。

丘陵地であり、坂の途中しかバス停がない公共交通機関空白地を含む自治会地域を選定。協力事業所は地域で居宅事業所や訪問看護事業所などを運営し、所有車両も多い株式会社社長に直談判し、快諾を得た。Aコースでの経験を踏まえ、該当自治会、老人会などに出向き説明し、協力を得ることができた。Aコースより道幅が狭いので、ワゴン車ではなく、軽自動車での送迎がよいのではと当該社長より提案があり、軽自動車2台での送迎が可能となった。

①希望者募集

老人会サークルの活動日を避けるため老人会長とも話し、一週間の老人会のスケジュールを確認。ポイント3倍デイも考慮して曜日を選定し、地区社協の協力もありとした内容のチラシを該当自治会地域全戸に配布、希望者を募った。包括職員も当該地域の高齢者の相談があったときは、このサービスの情報も提供した。その結果4名の利用申し込みがあった。

②サービス開始

令和6年5月より、サービスは開始された。スーパーでの受け入れボランティアも南平地区社協の声掛けで6人以上が参加。スーパーのポイントカードを作ったり、段ボール箱でいっぱい購入する人もいる。買った荷物をスタッフが玄関先

まで運んでくれるので、丘陵地で外階段がある住宅に住む高齢者はとてもありがたいと話している。

4. 考察・今後の方向性

今回、担当地域で2コースの買い物支援が実施できたことは、移動手段としての公共交通機関について地域課題解決を目的とした地域ケア会議などで検討したことを日野社協や地域住民と共有していたことで、地域の事業所との連携や役割分担がスムーズに行うことができたことが大きな要因であると考えます。今回の買い物支援ですべての問題が解決できたとは思えないが、一つの移動手段を含めた生活支援の方法であることをここに明記したい。